

【第112国会・1988年3月10日 衆院予算委員会 竹下登内閣総理大臣答弁より抜粋】

…懸念を生んでいるのは、次の諸点かと考えます。

逆進的な税体系となり所得再配分機能を弱めるのではないか、結局中堅所得者の税の不公平感を加重するのではないか、所得税がかからない人たちに過重な負担を強いることになるのではないか、いわゆる痛税感が少ないことから税率の引き上げが安易になされるのではないか、新しい税の導入により事業者の事務負担が極端に重くなるのではないか、物価を引き上げ、インフレが避けられないのではないかなどと思われまます。

私はこれらの懸念にこたえていくことが極めて大切なことであると認識しています。